

広報委員 の一言



国道289号の三条市下田地域から福島県只見町に至る県境部分の未開通区間が、11本のトンネルと10本の橋梁建設を含む大工事により、あと1～2年で開通予定である事をご存じでしょうか。この区間は、越後山脈の標高1,000～1,500m級の山々に囲まれた、日本でも有数の豪雪地帯であり、その険しさから一里が十里にも感じられることから、実際の道のりが八里ほどなのに「八十里越峠」と呼ばれてきました。

かつて南会津地域では越後から、食塩・魚類などの生活用品を運搬し、一方、越後地方では南会津地域から、この八十里越峠を通して繊維原料などを徒歩で運搬していました。その後のモータリゼーションの発達で道は廃れ、国道認定を受けた後も、地図上では車両通行不能な点線国道として残されてきました。

1986年から、この「通行不能区間」の解消を目指して国道289号改築事業がはじめられ、雪のため夏の短い期間しか工事ができないという困難を乗り越え、いよいよ開通の瞬間が近づいており、新潟、福島両県で期待が膨らんでいます。

この道の完成により総合病院のない只見町では、救急患者を会津若松の病院より、県境をまたいだ済生会新潟県央基幹病院へ搬送するほうが、距離的にも時間的にも近くなり、同町からも待望の声があるとのことでした。

この八十里越峠といえば、幕末の戊辰戦争で長岡藩家老「河井継之助」が、新政府軍との長岡城攻防戦の末、会津へ退却する途中に通った峠とし

ても有名です。足に重傷を負った継之助は1人で歩けず、この峠を越える際、「八十里 腰抜け武士の 越す峠」という自嘲の句を詠んでいます。峠を越えて会津藩にはいった継之助ですが、破傷風の悪化により、当時の只見・塩沢村にて死去しました。享年41。

さて、戊辰戦争では、1868年8月2日に敗走する奥羽越列藩同盟軍と、それを追走する新政府軍との間で、現・三条市曲渕の五十嵐川をはさんだ兩岸に陣を構えました。激しい戦いの末、多数の死傷者が出ました。この戦いで西郷隆盛の弟、吉二郎が同盟軍の小銃により被弾し、この傷がもとで36歳の若さで没しています。そして、戊辰戦争はこの后会津へと続いていきます。

現在、五十嵐川左岸曲渕堤防上には戊辰戦役記念碑が立てられています（写真）。五十嵐河畔には夏草が生い茂り、かつての激戦の名残はありません。そして、先人達が苦勞して超えたこの峠に現代の技術を集めた新しい道が完成しようとしています。

（永井 雅昭 記）



広報委員会委員：佐藤雄一郎・橋立英樹・勝井豊・高塚尚和・磯部賢論・高野由美子・恩田晃・平塚素子・永井雅昭

新潟県医師会報・第905号〔令和7年8月〕

発行所 〒951-8581 新潟市中央区医学町通2-13 新潟県医師会

TEL：025-223-6381 FAX：025-224-6103

ホームページ：http://www.niigata.med.or.jp メール：kaihou@niigata.med.or.jp

印刷所 〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 株式会社 DI Palette